



TITLE:

同好會報

AUTHOR(S):

CITATION:

同好會報. 天界 1921, 1(11): 226-226

ISSUE DATE:

1921-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159614>

RIGHT:

同好會報

●岡山支部七月通信(水野)

一、七月九日午後七時から宮原幹事宅で天界研究會第七回開會、されど曇天の爲め來會者は少なかったが相互研究せしこゝろ質問など話し合つた。

二、十日午後七時岡山發金光中學校教頭宅で若干の趣味者の爲めに水野幹事は星座に就いて實地指導をして翌曉歸國した。

三、十五日岡山高等女學校で五年生約六、七十名に左の講話をした後で月、水星、七夕星その他の觀望をしたが雲が多かつたので、九月に實地の觀望を約した後十時閉會した。

星座及び星名に就いて 水野幹事

●岡山支部八月通信(水野)

一、平松誠一翁、翁は備中撫川の人本年八十一の高齡に達しその研究的態度の旺盛なること壯者も及ばざる遠しの感がある。翁は和算の大家にして高等數學に達し壯年より測量に従事され備中全部美術、備前、備後の一部の測量を遂げ殊に兒島灣の測量の如きその著しきものである。又幼より天體に親しみ支那天

文に通曉し肉眼的星名は殆んど暗記し實物と一々對照せらるゝこゝ掌中の物を指すが如く黃道、白道の如きは天を一見して直ちに知るを得らるゝ程に精通せられ、尙進んで西洋天文の研究に没頭せられつゝある實に篤學の士である四日、十八日の兩日翁を訪ひ天文を談じ實に痛快であつた。又和歌に長じて居らるゝので近詠二、三を左に

1 天體觀測 四季

春。野に山に、かゝる霞よ、こゝろして、

夜はみ空の、星なかくしそ。

夏。てり續く、空の暑さも、忘れけり。

さやかに見ゆる、み星なかめて。

秋。春雨や、五月雨過し、秋の空、

星見る友の、世とはなりけり。

冬。たなかたき、霜も氷も、餘所にして、

星なかめつゝ、夜は更にけり。

2 寄天體述懷

かきりなき、みほしあふきて、おもふかな、

あまつよはひに、ひとのにさるを。

3 狂歌、寄數學述懷

わかこしの、かきりならむ、數學の、

九々にみちたる、八十の一

二、家庭宣傳 五日は倉敷、二十日は岡山、

二十八日は兒島郡山田村で

三、天界研究會第八回 水野幹事宅で十三日

開會

四、三十日兒島郡莊内村に出張常山城趾係勝會の一事業たる常山觀測所の件について打合をした。

大阪の百濟氏より

長らく天を見なかつたので、二日の夜は久し振りに天を見ました、十一等星位迄見えて、大阪としては、よく晴れて居ましたので、牡牛座を檢査して半時間費しました、其中これは珍しいと思つて調べたら Crab nebula でした

(九月五日)